



「公民館で佐志食堂」 営業中



みんなで食べるとおいしいね。高齢者は椅子席で
＝唐津市の佐志公民館

【唐津市】唐津市佐志浜町の佐志公民館に毎月第3土曜日、青いのぼり旗が立つ。「佐志食堂」営業中の知らせだ。大人300円、中学生以下の子どもは無料で、キャッチフレーズは「二人ははんよりみんなでごはん、おいしいね」。「食を通して、世代を超えた「地域の居場所づくり」を進める。

「食堂」は4月から始め、いたが、14人が訪れ、「足3回目だった16日の献立はハリなくなつてハンバーグを半ハンバーグと目玉焼きをご飯の分にしたり、スタッフの分は上に乗せたハワイアン丼と、弁当を買いに行ったりで」とカボチャなど具だくさんのみ、中心メンバーの深川美保さんが、100人分を用意して（54）. 笑顔で語る。

公民館で「佐志食堂」営業中

◎記事から読み取ろう

○深川さんが感じる「食」への危機感と「食」の大切さとはどんなことですか。

食から地域の居場所づくり



「きょうのメニューはハワイアン丼です」。中心メンバーの深川美保さん

「食べると幸せ、心も開く」

深川さんは食生活改善推進協議会佐志支部長で、市青少年支援センターの相談員を務める。二つの現場で感じるのが「食」への危機感であり、その大切さだ。

経済的に厳しく食費を切り詰める家庭がある一方、コンビニの総菜でおかずを済ませる家庭もある。かつては漁師町だった地区は高齢化が進み、孤食の世帯、さらには近くのスーパーが撤退する中で、買い物難民も増えているという。

そこで「子ども食堂」に限定せず、多世代が集まる「地域食堂」を思い立ち、食生活改善推進協議会の仲間に協力を呼び掛けた。資金は大人が徴収する300円と校区社会福祉協議会の年間10万円の助成金だ。

今回の参加者は子どもが約

(佐賀新聞 2018.4.11 付)

◎広げよう・深めよう

○記事や写真から印象に残ることを書いてみよう。

< から

(ということ)がわかり、

という点で(と思い・考え)、印象に残っている。

< から

(ということ)がわかり、

という点で(と思い・考え)、印象に残っている。

◎自分の考えをまとめよう

*友達と意見交換したり、家族と話し合ったりしよう

○地域での人たちのつながりを広げていくために、自分の立場からはどんなことができると思いますか。